水の文化

治水家の統（すべ）

松浦茂樹「歴史が語る、近代治水の変遷」

和田一範「武田信玄の総合的治水術」

安達　満「暮らす人の知恵と術」

藤原光弘「水の都大阪の渡し」

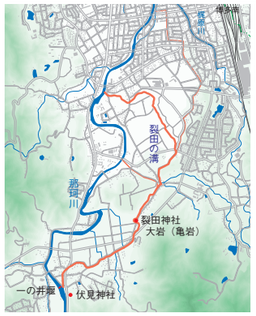
島谷幸宏「成富兵庫茂安の足跡」

宮地米蔵「佐賀平野を養う水利用」

水の文化楽習実践取材「堀の記憶が成し遂げた、柳川再生物語」

古賀邦雄　水の文化書誌「利水あっての治水か」

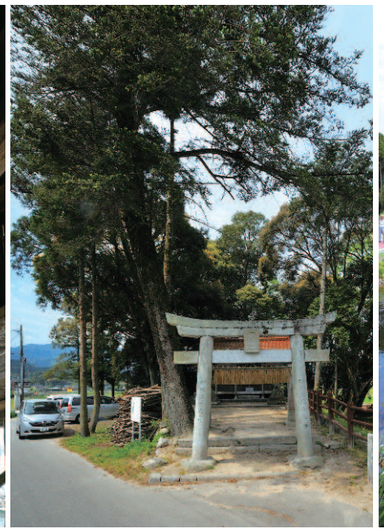
水の文化 July 2009 No. 32



ミツカン 水の文化センター

表紙上：甲州・笛吹川の万力林近く。川の中に石を積み、聖牛を置くことで、取水口に水を導いている。穢れを川や海に流す水神、瀬織津姫（せおりつひめ）が水門に祀られている様子は、人事を尽くしても天命に委ねざるを得ない川と人とのつきあいを物語っている。

表紙下：鍋島家の支藩蓮池藩の菩提寺である、佐賀市蓮池町の宗願寺。御霊屋の向拝の虹梁の上に、棟木を支える木彫りの河童が鎮座する。邪鬼のようにも見えるが、河童封じと言われている。

裏表紙上：博多湾に注ぐ那珂川の上流にある、現在の一ノ井堰と、かつての一ノ井堰（地図の隣り）。上の写真の水中に見える岩は、当時の遺構。左端が取水口だ。「日本書紀」神功皇后紀に記述があるという裂田の溝（さくたのうなで）は、一ノ井堰から取水し、今も山田から今光まで6つの集落の水田を潤している。地図の北（上）が下流。国土地理院基盤地図情報（縮尺レベル25000）「福岡」を元に作図

裏表紙下：与止姫（よどひめ）を勧進する伏見神社（左）。嘉瀬川同様、ここの人たちは神の使いであるナマズを食べないそうだ。溝（うなで）というのは用水路のこと。一部コンクリートで補強されたが、岩を穿ったままの昔からの水路も残っている。溝は、裂田神社（中）を取り巻くように流れている。